

# 住民へ「切迫感」のある情報を伝えるために

R2.1.18

～近畿地方メディア連携協議会『現場視察会』を開催しました～

～近畿地方整備局～

- 近畿地方整備局・大阪管区気象台・各メディア報道関係者で構成する「近畿地方メディア連携協議会」での取組の一つとして、『現場視察会』を令和2年1月18日に開催しました。
- 普段は目にする機会の少ない様々な河川管理施設を視察していただくとともに、淀川水系の変遷や治水システム、これまでの治水対策や防災に関する取組などについてご説明しました。

## 近畿地方メディア連携協議会現場視察会の概要

- 日時: 令和2年1月18日(土) 9:00～17:00
- 参加団体: 7社(五十音順)  
朝日新聞社/ABCウェザーセンター/日本放送協会  
大阪放送局, 天津放送局, 奈良放送局/関西テレビ  
放送(株)/ (株)毎日放送 (記者、キャスター含む)等  
計17名
- 視察場所: 西島地区スーパー堤防、毛馬排水機場  
さくらであい館、嵐山地区、日吉ダム

## 日吉ダム

### ■説明概要

- 日吉ダムの歴史と経緯、施設概要と操作方法等を説明。
- 平成30年7月豪雨では、異常洪水時防災操作を実施。嵐山地区では、これまでの河川整備と日吉ダムの洪水調節により、約1.5mの水位低減効果があったと推測。

### ■メディア関係者の感想

- ダムの事前放流などにも気象予測が使われるので、気象予測の精度向上が重要と感じた。



## 西島地区スーパー堤防

### ■説明概要

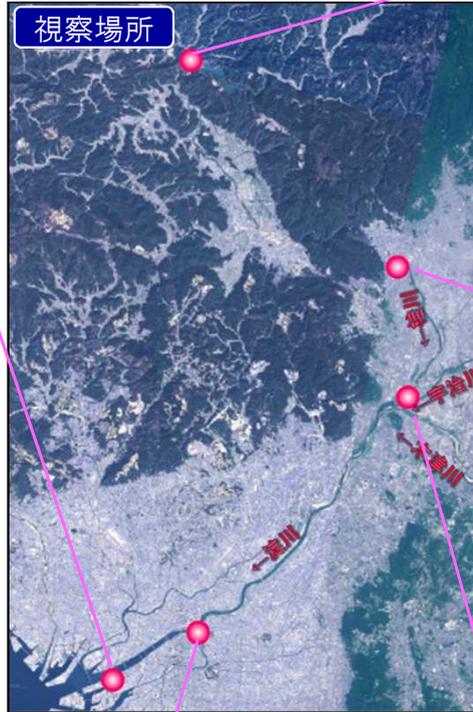
- スーパー堤防は、まちづくりと一体的に整備しており、通常の堤防と比較して幅が広いこと、越水による堤防決壊を防ぐことができる堤防。
- 盛土に合わせて地盤改良を行っているため、地震にも強い堤防であり、災害時の避難所として活用可能。

### ■メディア関係者の感想

- スーパー堤防の災害に強い機能、まちづくりと一体的に進めるために事業期間が長期に渡ることの理解。



## 視察場所



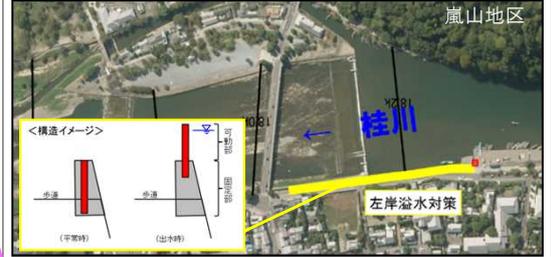
## 嵐山地区

### ■説明概要

- 桂川の嵐山地区は、頻りに浸水被害が発生しており、早期の治水対策が求められている。
- 地元等の合意形成が諮られ、景観に配慮した可動式止水壁等の治水対策が決定。
- 嵐山地区改修の進捗に伴い、上流亀岡地区の改修が促進。

### ■メディア関係者の感想

- 景勝地の治水対策における景観配慮や地元合意等の重要性を認識した。



## 毛馬排水機場

### ■説明概要

- 毛馬排水機場は、高潮や洪水から大都市圏を守る治水上、重要なインフラ施設の一つ。日本一の排水能力を有しており洪水時には大阪市街地を守っている。
- 過去最高潮位を記録した平成30年台風第21号の襲来時には、大阪府三大水門、陸閘閉鎖と合わせて排水機場の稼働によって、高潮による大阪市街地の浸水被害を回避。
- 毛馬閘門の役割や仕組み、砂利採取業者等の船の日常的な活用状況。

### ■メディア関係者の感想

- 大がかりな施設で治水がコントロールされていること、歴史的に大阪の人たちがその都度最善の対策を取り、治水と向き合っていたことが勉強になった。



## さくらであい館

### ■説明概要

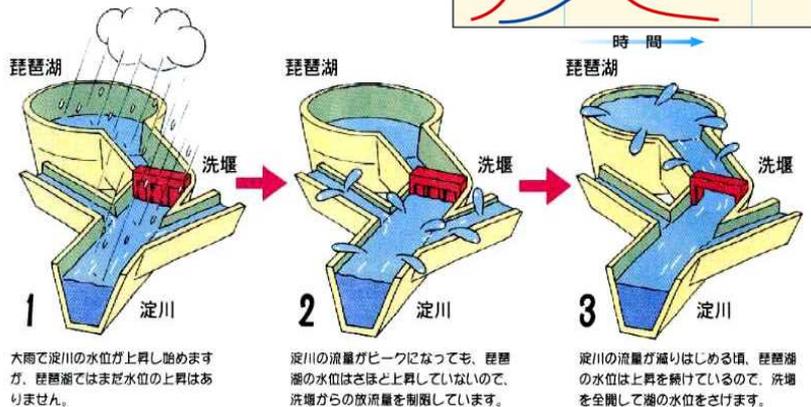
- さくらであい館は、桂川、宇治川、木津川が合流した三川合流部地域の自然・歴史資産を保全しつつ、地域を活性化することを目的として整備(平成29年3月)。
- さくらであい館の展望塔では、桂川の堤防引堤、木津川の影響が及ばないために背割堤整備の改修経緯、三川合流部・巨椋池の地形変遷等。



## 車中説明

### 説明概要

琵琶湖水位と淀川流量の洪水ピーク時差を活用した淀川水系の治水システム



○令和元年第台風19号等における近畿地整TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊) JETT(気象庁防災対応支援チーム)の活動紹介



## 参加者の感想

### 【視察箇所や施設に関する感想】

- 実際にスーパー堤防の現場を見て、現場がどうい場所、溢れたり、場合によっては切れたりといったことを想像することで、規模感がどういものか、住んでいる人からしたらこういう感じで日々堤防の高さを見ているのかとリアルに感じることができ、今後の情報の伝え方に活かしていければと思う。
- 堤防の脇で川を見て暮らしている人は洪水を考えることはあると思うが、川から離れて暮らしている人は淀川の支川でどうい影響があるのか、それが流域全体の中でどうい位置づけになっているのかなどを真剣に考えないといけないと感じた。
- 毛馬排水機場には大がかりな施設があり、治水がコントロールされていること、歴史的に大阪の周辺の人たちが、その都度最善の対策を取りながら、治水と向き合っていたことが勉強になった。
- これだけ大がかりな設備があつてコントロールしている中でそれを上回る災害が発生しているということを考えると、やはり本当に大雨が発生しているということを、我々も伝える上で危機感を視聴者と共有しないといけないと感じた。
- 特に嵐山の治水が進まないと亀岡地区の堤防を直せないというのが印象深かつた。また、嵐山が景観地区ということで景観を考えずに工事はできないということも考えさせられた。
- ダム of 事前放流や水門の開閉操作などにも気象予測が使われているので、気象予測の精度をもっと上げていかないといけないと思った。

### 【淀川水系の変遷や治水システムに関する感想】

- 昔の考え方で作つた堤防から、今の堤防の形にどんどん変わっているということが勉強になった。
- 淀川も昔はばらばらに流れていたが、掘削など改修を進めてきた結果であること、自然と思っていたものが人工的だつたということに驚いた。
- 現場や動画を見せて戴いたことで、災害時の緊迫した状況を具体的にイメージすることができた。
- 川が一つのシステムとしてコントロールされていることを改めて実感することができた。
- 水系を一体として管理していることが非常によく分かつたし、複雑であることも分かつた。
- 気候変動による災害の甚大化について、このシステムをどう考えていったら良いのか、私たち自身もちゃんと考えていかないといけない。

### 【現地視察を踏まえた今後の情報発信のあり方等に関する感想】

- 災害時は上流から下流を眺めながら、どうい報道ができるのかを考えていきたい。
- 伝え手として出水期の時期には、一人ひとりに情報の重大性などをリアルタイムに伝えていく工夫をしていきたい。
- 住民の方々へ行動を促す伝え手の立場として、この情報の意味、情報ができるに至つた過程、どうい操作をダムや河川管理者の方がされているのかそれを知つた。
- これからは、いわば伴走者として、今こうい状況だからこうい操作をしていて次にはこうい懸念があるんだと分かつた上で皆さんにこうい意味ですよと伝ええる技術者としての解説者になりたいと感じた。そのためにももっと川のことを勉強しないといけないと思った。
- 雨が川に流れ込んできて、ダムに集まって、ダムでどうい操作をして下流に流れて、人間が頑張る部分の操作や人間が堤防を造つた部分など色々対策することで被害が減つたり、被害が起きてしまつたりといったことがあるということを知らずして、この川は溢れそうと言いたくない。もっとしっかり勉強をしていきたい。
- 今年度は川の防災情報も参考にさせてもらったが、テレビでの限られた時間の中でしっかりとサイトの紹介できなかったのが、次の出水期ではどうい風に伝えられるかを考えていかないといけない。
- 今後、近畿の全部の水系を見てみたい。

毛馬排水機場(集合写真)



日吉ダム(集合写真)



【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター・河川計画課  
〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)

